

Health

## UpToDate Anywhere、 オタワ病院でのモバイルを 活用したケア提供に欠かせない リソースに



教育研究病院でもあるカナダのオタワ病院は、質の高いケアと優れたサービスの提供に力を入れています。近年、モバイル戦略の導入に伴ってUpToDate Anywhere®を採用したところ、これがアウトカムの向上に結びついています

「我々が目指すのは、世界水準のケア、優れたサービス、自分たちの大切な人たちに向けるのと同じ思いやりを患者さん一人ひとりに提供することです。」と、最高医療情報責任者のグレン・ガイガー医師は話します。

「電子カルテやUpToDateのような高度情報システムの利用をポイントオブケアで臨床医に求めるなら、デスクトップPCが相応しくないことは明らかでした。UpToDate Anywhereなら、モバイル端末からUpToDateにアクセスできます。臨床医にはモバイルを利用したケアを望んでいたので、UpToDate Anywhereの採用は自然な流れでした。」と、ガイガー医師は付け加えます。



「情報アクセスがモバイルで可能になったことに対し、臨床医からは臨床の実践方法が変わったとの反響を得ています。」

オタワ病院  
最高医療情報責任者  
グレン・ガイガー医師

### 電子情報源にいつでも、どこでもアクセス

臨床ワークフローの強化と合理化を目指し、オタワ病院はモバイル戦略を導入して臨床医に数千台のモバイル端末を供給しました。その結果、医師はUpToDateの臨床コンテンツだけでなく、電子カルテにも安全にアクセスできるようになりました。電子カルテとUpToDateへの同時モバイルアクセスは、ポイントオブケアで疑問を解決しなければならない状況で、医師の要望に応えています。

この目標を達成するために、オタワ病院では電子カルテ (EHR) と高度情報システムを導入することにより、ポイントオブケアでの患者対応を向上させるという戦略を策定しました。しかし、このような情報源へのアクセスが制限されていると、臨床医は患者のそばを離れたり、デスクトップからのアクセスに必要な機器をすべて持ち運ばなければなりません。オタワ病院は、臨床医が必要な時に、必要な場所で、必要な方法でエビデンスに基づいた推奨治療法にアクセスできることが、ポイントオブケアでより意思決定を行い、質の高いケアをすべての患者に提供するという戦略に欠かせないと判断しました。

「情報アクセスがモバイルで可能になったことに対し、臨床医からは臨床の実践方法が変わったとの反響を得ています。」と、ガイガー医師は述べています。「オタワ病院ではCD-ROMの時代からUpToDateを利用しています。8年ほど前に、UpToDateは極めて有用なのでウェブ版を購入してほしいと経営陣を説得しました。ウェブ版を導入したところ、利用度が跳ね上がりました。ですから、臨床医がモバイル版を利用できるようにUpToDate Anywhereの契約に移行したことは自然な流れなのです。利用の可能性を広げれば広げるほど、医師の利用度も上がっています。」と、ガイガー医師は説明しています。



「UpToDate Anywhereへの移行により、当院の医療スタッフ全員が情報源にアクセスできるようになりました。」

オタワ病院  
情報整理・アクセス部門 ディレクター  
マーガレット・キリー

### 推奨治療法にポイントオブケアでアクセス

オタワ病院の臨床医は、UpToDate Anywhereを強く支持しています。それは、時間や場所を問わずに臨床上的疑問を解決し、推奨治療法を入手できることに大きな価値を見出しているからです。

「医事部門長から臨床医全員に対し、UpToDate Anywhereの利用開始を知らせるメールを送信してもらいました。このお知らせは、今年送信したどのメールよりも大きな反響があったようです。」と、キリー氏は付け加えます。「さらに、UpToDate登録会を2日間にわたって開催しました。導入の成功には、口コミの影響も大きかったと思います。UpToDateは極めて高く評価されているので、みんな自然に利用するようになりました。」

### 結果

2013年の導入以来、UpToDate Anywhereの利用度は2倍以上に増え、週に最大6,000回だった臨床レビューの閲覧数が最大13,000回になりました。モバイル採用率は約78%で、全体の44%はモバイル端末からの利用です。

「医療スタッフが高度情報システムをその場で利用できる施設で患者さんを治療するか、そうでない施設であるか、は患者さんにとって難しい選択ではないと思います。」と、ガイガー医師は話します。

同医師によれば、オタワ病院ではテクノロジーと高度情報システムへの投資に新たな基準を設けたとのこと。臨床基準を上げるためには臨床意思決定支援システムの導入も必要だという考えは、他の施設にも広がっています。

遠隔モバイルアクセスにより、医療機関に所属する臨床医は、エビデンスに基づいた臨床コンテンツを時と場所を選ばずに、自宅でも、診察室でも、患者のベッドサイドでも必要な時に利用できます。

2倍 臨床上的疑問検索が増加

44% モバイル端末からの利用割合

「モバイル戦略とUpToDate Anywhereの導入で、臨床支援情報源に簡単にアクセスできるようになり、障壁が低くなりました。当院のモバイルイニシアチブは、臨床医が最新臨床情報をできるだけ自由に活用できるようにすることです。」と、ガイガー医師は話します。

「UpToDate Anywhereへの移行により、医療スタッフ全員が情報源にアクセスできるようになりました。」と、オタワ病院情報整理・アクセス部門ディレクターのマーガレット・キリー氏は話します。

「これは当院の看護スタッフや研修医にとって大きなメリットです。特に看護スタッフには、UpToDateを使用して専門外の領域についても学ぶように奨励しています。」

### 施設全体で導入

UpToDate Anywhereを施設全体でスムーズに導入できた要因として、コミュニケーションツールやトレーニングツールを使用したことに加え、UpToDateによる導入計画の提案が挙げられます。導入は極めて簡単だったとキリー氏は述べています。

ハーバード大学の研究者によると、病院でのUpToDate採用が、臨床アウトカムの向上に直接関連するとのこと。<sup>1</sup>

UpToDateを3年使用することで、以下に結びつくことが確認されています：

- 死亡率の低下—3年間で**11,500**名を救命
- 入院期間の短縮—1年あたりの入院日数が**372,500**日短縮
- 医療の質の向上—**Hospital Quality Alliance**が定めるすべての項目が改善

「UpToDateは、ここオタワ病院で非常によく活用されています。当院のモバイル戦略は、患者さんと治療に関する最新情報を臨床医に与えることにより、アウトカムと患者さんの満足度を高めることを目標としています。UpToDateはこの戦略に欠かせない情報源です。」と、ガイガー医師は述べています。

<sup>1</sup> Isaac, T., Zheng, J. and Jha, A. (2012). 「Use of UpToDate and outcomes in US hospitals」 (米国内の病院におけるUpToDateの利用とその成果)。J Hosp Med. 2011年11月16日 doi:10.1002/jhm.944

